

【議事】定 8

(2) JAXA 公開シンポジウム“ロボットが拓く宇宙開発”の開催について

JAXA の飯田理事が資料 8-3(ロボット・シンポジウム)を説明した後、質疑応答が行われた。

尚、シンポジウムは 3 月 28 日開催予定で、参加費無料である。)

青江: JAXA は、日本はロボティクスが強い、有人より無人に軸足を置いて進めるというメッセージを、世に向けて発したいという趣旨なのか。

JACA 飯田: 必ずしも無人対有人という意味でなく、有人をやるにしてもロボットは重要な技術で、その前段階のものもあるし、サポートの意味も有る。また、人の行けない所にはロボットが行かなければならない。様々な使い方を考えている。

青江: 私の言ったことは間違いですね。

JAXA 飯田: ええ、単純ではないということである。

青江: そのようなメッセージを発したい訳では、全く無いと。

池上: お客さんは誰をを考えているのか。今、ロボコンなどに熱心な連中なのか、もう少し真面目な産業界を考えているのか。むしろ、遊びという感じですか。

JAXA 飯田: 遊びではない。これは少し専門的な話が中心になると思っている。今仰ったロボットカップの方も、パネルに加わって頂ければと思っており、もっと若い層を将来巻き込む必要があることを考えている。

池上: 現状、ご案内の通り、産業現場の産業創出をするためのロボティクスは強く、産業現場のロボットの 4 割ぐらいは日本製である。問題は、例えば独立 2 足歩行、いわゆるヒューマノイド

的なことには、アプリケーションが中々無い。それ以外の災害対策用のロボットについても、アプリケーションの分野が見つからない。そういう位置付けの中で、このような企画を行なう。デモ、宇宙で使われているロボットはかなり限定されるのではないか<sup>1</sup>。

JAXA 飯田: 仰るとおり、ヒューマノイド型は望ましいが、宇宙では現実的でない。宇宙の探査では動き回る必要があり、ヒューマノイド型でなくともローバー型などもある。これと限定する段階では無く、色々と考えながらやる必要がある。

池上: ヒューマノイドは外国では全く受けない。日本だけである。気持ちが悪くという反応である。

松尾: これは、一緒になって何かやりませんかということ、それとも、JAXA のビジョンに示されるものの技術補完を求めるのか。

JAXA 飯田: 最初の方が比重が大きい。ビジョンの中でロボットを明確に出していない。いずれにせよ、ロボットを使わなければならない、それをどのように外と連携していくのが課題である。

池上: 宇宙服の中にロボットの的なものを入れ、重いものを持ち上げられるようにするといった、前向きな話も良い。

JAXA 飯田: それも一つである。

池上: それを研究されている方がいらしたら。

松尾: 最初の青江委員の質問に対する答は、「全く無い」ではなく「必ずしも無い」であろうと読み替えて頂ければ良い。

青江: 良い読み替えで。

---

<sup>1</sup> 宇宙ロボットは、コマンド無しにドッキングするなど、宇宙機の自律性を段階的に高める段階である。宇宙ロボットのイメージをお持ちで無いように見受けられる。